様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ４ 月 ３０ 日現在

機関番号：３０１０３
研究種目：基盤研究(A)
研究期間：2009～2013
課題番号：２１２４２０２９

研究課題名（和文）極東古集団の形成・統合

研究課題名（英文）Formation and integration of ancient populations in North East Asia

研究代表者
臼杵　勲（Isao, USUKI）

札幌学院大学・人文学部・教授

研究者番号：８０２１１７７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　27,800,000円、（間接経費）　8,340,000円

研究成果の概要（和文）：ロシア極東は、朝鮮半島・日本列島とともに、東アジアにおける国家形成期の地域間交流や集団の動きを考える上で検討が必要な地域である。本研究は、ロシア沿海地方北部を中心に、青銅器時代～中世期にかけての集団の形成と展開、社会変化の過程を考古学に明らかにすることを目的に、研究を実施し、以下の成果を得た。(1)青銅器時代～初期鉄器時代の様相の考古学的な把握、編年体系の整備・集団の動向の把握、(2)靺鞨系集団の形成過程の解明、(3)当該地域青銅器時代の生業活動の解明、(4)遺跡の様相からの社会階層化過程の分析、(5)文物・鉄器生産技術等からの周辺地域との交流の解明、(6)当該地域の国家形成過程のモデル化

研究成果の概要（英文）：The Russian Far East is the indispensable area to be inquired for the consideration of the early state formations in East Asia, along with the Korean Peninsula and the Japanese Islands. This research intended to construct the archaeological framework of this area, and to clarify the origin and transformation of the local populations, and their social changes to early state in Russian Far East. In this study the following items were clarified.
1.The archaeological aspect, such as the chronological order, movement of local populations, or so, since Bronze age till early Iron age. 2.Mokhe tribe group's formation process. 3.The subsistence activity of Bronze age culture. 4.The process to the hierarchical society, by analyzing fortress settlements in this area. 5.The interaction with surrounding areas, such as China, Korean peninsyula, and Mongolia, analyzing foreign relics, metallurgy thechnique. 6.The early state formation process in this area.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：初期鉄器時代　東夷　極東　防御集落　靺鞨

１．研究開始当初の背景
近年、弥生時代の年代観の見直しとともに、中国北部、朝鮮半島などの青銅器・鉄器時代文化の併行関係と各地域の集団の動態の見直しが進められている。弥生時代開始年代の変更に伴い、当然それに関わった集団の移動の背景や、周辺地域の動向との関連にも再考が必要となる。本研究であつかう沿海地方は、細形銅剣の出土が知られるなど、朝鮮半島・日本列島とともに、東アジアにおける地域間交流や集団の動きを考える上で検討が必要な地域である。また、当該地域は、５～7 世紀にかけて靺鞨系集団により国家形成が行われた地域であり、その変遷過程について、ほぼ同時代の日本列島との比較も重要である。ただし中国・ロシアでは、編年・分布等の考古学的な枠組みが完成されておらず、これらの変動を的確に把握することができていない。また、史料上の民族・集団と考古学的文化の安易な関連付けが行われるなどの問題もあった。そのため、考古学の基礎的研究とそれに応じたより具体的な周辺との比較研究、地域間交流の実態の解明が必要とされていた。

２．研究の目的
　本研究は、以上の背景に基づき、ロシア沿海地方を中心に、青銅器時代～中世期にかけての集団の形成と展開、社会変化の過程を考古学に明らかにすることを目的に以下の５項目を具体的な対象とした。
(1)青銅器時代～初期鉄器時代の靺鞨系集団の出現以前の様相の考古学的な把握、文化・集団の移動・変容の解明
(2)靺鞨系集団の形成過程の解明
(3)遺跡の特徴・分布等から見た国家形成期の社会変化の様相の解明
(4)技術・文物等の交流から見た中国・朝鮮半島・モンゴル高原等の周辺地域との地域間交流の実態の解明
(5)当該地域の国家形成のモデル化

３．研究の方法
（1）靺鞨系集団の動態を把握するため、起源地であるアムール川流域と隣接するにも関わらず、調査例が稀少である沿海地方北部地域を、現地調査の主な対象とし、発掘・分布調査、青銅器時代～靺鞨文化期の集落の実態把握、各時期の集落の比較を行う。

（2）極東全域を対象に、文献・分布調査・位置計測による遺跡 GIS の作成を進め、集団の動態を空間的に把握する。

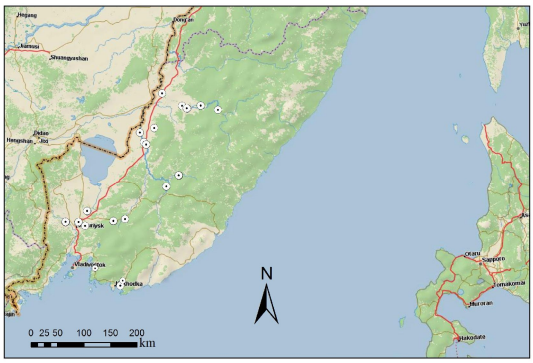
（3）発掘・既存の自然遺体や金属加工関連資料から、生業・金属器製造技術等の把握と、周辺地域からの影響を検討する。

（4）発掘資料及び、既存の出土資料の検討、年代測定を基礎に、編年・併行関係が確立していない青銅器時代～初期鉄器時代にかけての、文化編年と暦年代の確立を行う。

（5）周辺地域との関連や地域間交流を明らかにするために、隣接地域の既存資料の調査を行い、得られた資料の検討から交流の実態を明らかにする。

（6）中国・韓国・ロシア等の周辺地域の研究者らと、情報・意見交換、研究成果の検討を行うため、国際研究集会を開催する。

４．研究成果
(1)ロシア沿海地方において、ロシーナ６遺跡、エリザベトフカ１遺跡の発掘調査、青銅器時代～靺鞨文化期の分布・試掘調査を行い、データを GIS に組み込むことで、青銅器時代、初期鉄器時代（ポリツェ文化）、パクロフカ文化期の集落の実態、遺跡・立地や分布の様相を明らかにし、良好な調査事例を蓄積した。特に、沿海地方北部における青銅器文化類型の内容、初期鉄時代集落の形態・立地等の特徴、靺鞨文化期における防御性集落の存在を明らかにし、北東アジアの前１千年紀～後１千年紀の社会状況に関する新たな情報を提供した。



調査地域・遺跡

(2)初期鉄器時代遺跡の時期判定と分布状況から、靺鞨系文化の前身であるポリツェ文化の初期の分布が、沿海地方には及ばず、後期に沿海地方の南下が始まることを明らかにした。また、沿海地方の初期靺鞨系文化遺跡の資料の存在を確認し、その形成が、アムール流域と沿海地方でほぼ同時期に起きたことも明らかにした。

(3) フローテーション・レプリカ法により、青銅器時代と初期鉄器時代の植物遺体を検出し、青銅器時代～初期鉄器時代の雑穀の存在を明らかにした。沿海地方北部においては、明確な栽培植物の存在が知られていなかったが、この作業によりアムール川流域に隣接する地域まで、紀元前１千年紀前半には雑穀栽培がおこなわれたことを確認した。

レプリカ法で検出したアワ果実

(4) 初期鉄器時代の鍛冶関連遺物により、鍛冶作業が一般的に行われたことを確認し、紀元2世紀までに沿海地方北部においても道具の鉄器化が進んだ様相を把握した。さらに、ふいご等の一部の冶金技術が、中国方面ではなく、モンゴル等の草原地帯からもたらされた可能性を確認した。

(5) 発掘資料・既存資料から、年年代測定試料を採取し、従来、良好な資料が稀少であった当該地域の各考古学文化の暦年代の確定に必要な測定結果を得た。この結果、ポリツェ文化期については、前期・中期・後期の各時期、靺鞨文化への変化期の暦年代も概ね明らかにできた。

(6) ブラゴヴェシェンスク・ハバロフスク・ハルビン・長春・ウラジオストック・イルクーツクの各機関の所蔵資料を調査し、青銅器時代～靺鞨文化前半期までの編年作業を年代測定結果と併せて行い、青銅器時代～初期鉄器時代の周辺地域との併行関係、靺鞨系文化の出自やその変遷過程を明らかにした。

(7) 2011 年に中国人民大学、2013 年に札幌学院大学において、中国東北部・韓国・ロシア・日本の研究者らによる国際研究集会を開催し、弥生～古墳時代併行期となる国家形成期の社会変化や地域間交流に関して、発表・質疑を行い、研究の成果や方向性を確認し、北東アジア地域の国家形成期に関する国際的な共通理解が得られた。特に、大型集落や防御集落等の内容から、ロシア極東・中国東北部における社会変化が、予想以上に大規模・広範囲にわたることが確認された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 2 件）

①臼杵勲、北東アジアと日本列島、考古学ジャーナル、No.605、2010、3-5、査読無

②木山克彦、靺鞨・渤海・女真の考古学、アジア遊学 139 号、2011、138-147、査読無

〔学会発表〕（計 14 件）

①臼杵勲、日本における靺鞨研究、古代東北亜の種族と文化：高句麗・渤海学会、2009 年 11 月 7 日、慶星大学校（釜山）

②木山克彦、臼杵勲、ロシア沿海地方エリザベトフカ１遺跡・ロシーナ６遺跡の調査、第 12 回北アジア調査研究報告会、2011 年 3 月 6 日、札幌学院大学

③臼杵　勲、木山克彦、黒龍江流域・濱海地区 Poritse 文化研究动态、東北亜早期鉄器時代国際学術研究会、2011 年 12 月 9 日、中国人民大学（北京）

④Yuri.Nikitin（海外共同研究者）、Evgenii.Nikitin、俄罗斯滨海地区初期铁器时代诸文化间的关系、同上

⑤臼杵勲、俄罗斯滨海地区早期鉄器時代的防御集落、東北亜古代集落与城市考古国際学術討論会、2012 年 10 月 20 日、中国人民大学

⑥Yuri. Nikitin、居民的社会等級　綏芬河谷地的社会結構為例、同上

⑦木山克彦、極東地域の初期鉄器時代　ロシア沿海州地域の調査成果を中心に、国際学術大会東アジア考古学の最前線、2013 年 2 月 2 日、嶺南大学校（大邱）

⑧臼杵勲、Yuri.Nikitin、ロシア沿海地方エリザベトフカ１遺跡の調査、第 14 回北アジア調査研究報告会、2013 年 2 月 9 日、金沢学院大学

⑨小畑弘己、圧痕種実の産状からみた土器混入雑穀の母集団の推定、第 28 回日本植生史学会、2013 年 11 月 29 日、高知大学

⑩臼杵　勲、沿海地方北部の青銅時期時代と東夷世界の形成、国際研究集会「１千年紀前半の極東：挹婁、濊貊、靺鞨の考古学研究」、2013 年 12 月 15 日、札幌学院大学

⑪Yuri.Nikitin、極東ロシア沿海地方のポリツェ文化の様相、同上

⑫木山克彦、ポリツェ文化から靺鞨文化の土器変化、同上

⑬木山克彦、ポリツェ文化～靺鞨文化初期の土器資料調査、第 15 回北アジア調査研究報告会、2014 年 3 月 2 日、札幌学院大学

⑭臼杵　勲、高瀬克範、ロシア沿海地方北部の青銅器文化、同上

〔図書〕（計１　件）
①臼杵勲、木山克彦、坂本稔、高瀬克範、岩瀬彬、笹田朋孝、大澤正巳、国木田大、ロシア沿海地方の初期金属器文化、札幌学院大学、2013 年 3 月

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
臼杵　勲（USUKI Isao）
札幌学院大学・人文学部・教授
研究者番号：８０２１１７７０

(2)研究分担者
小畑弘己（OBATA Hiroki）
熊本大学・文学部・教授
研究者番号：８０２７４６７９

坂本　稔（SAKAMOTO Minoru）
国立歴史民俗博物館・情報資料研究系・教授
研究者番号：６０２７０４０１

高瀬克範（TAKASE Katsunori）
北海道大学大学院・文学研究科・准教授
研究者番号：００３４７２５４

木山克彦（KIYAMA Katsuhiko）
北海道大学・スラブ研究センター・博士研究員
研究者番号：２０５０７２４８

(3)連携研究者
大貫静夫（OHNUKI Shizuo）
東京大学大学院・人文社会系研究科・教授
研究者番号：２０１５７２２５

石川日出志（ISHIKAWA Hideshi）
明治大学・文学部・教授
研究者番号：４０１５９７０２

熊木俊朗（KUMAKI Toshiaki）
東京大学大学院・人文社会系研究科・准教授
研究者番号：２０２８２５４３